



更生保護

# みちのく

電子版

令和6年 秋号

発行者：  
 東北地方保護司連盟  
 仙台市青葉区片平1丁目3番1号  
 仙台法務総合庁舎  
 電話 022(221)3536  
 発行人：天内 修  
 印刷：田端印刷株式会社



「栗駒山をバックにマガンが飛んでいる風景」  
 写真提供：栗原地区保護司会 元保護司 黒澤 征男 氏  
 渡り鳥の聖地、伊豆沼・内沼に毎年数万羽のマガンや白鳥が飛来します。

## 変革時の保護司



東北地方保護司連盟  
 会長  
 天内 修

平素、保護司の皆様におかれましては、犯罪予防活動はじめ様々な更生保護事業活動にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。中にも「社会を明るくする運動」強調月間の7月は連日の真夏日で、大変ご苦労されたことと思います。今年には震災や豪雨災害があちこちであり被災された方々にはお見舞い申し上げます。また、5月には現職の保護司が殺害されるという大変痛ましく身につまされる事件がおき、保護司やそのご家族には不安を感じている方もいることと存じます。どんな小さなことでも遠慮することなく担当する保護観察官等にご相談してください。

さて、「持続可能な保護司制度の確立に向けた検討会」が昨年5月から本年9月まで13回開催され、10月には協議内容の取りまとめがなされました。更生保護制度も施

行75周年を迎え、社会生活の変化や人々の考え方も制度施行時と多少違ってきていると思いますし、人間社会が営まれている以上、更生保護は必要と思います。社会や保護司の現状を踏まえ、さらには将来を見据え、更生保護は特別なものではなく普通の社会生活に必要なもの、保護司も一般市民、もつと一般市民になじむ制度、保護司であってほしいと思います。本年4月17日、オランダ・ハーグにおいて「国際更生保護ボランティアの日」の宣言が採択されました。世界に「保護司」とその活動が知られるようになります。保護司は、どちらかという罪を犯した人への更生への手助けばかりに目が行きがちですが、再犯防止等犯罪予防活動の広報啓発がとても大事です。今後は「社会を明るくする運動」をはじめ地域社会、市民に対する犯罪予防活動をもっと広く、また密に、年間を通して開催することを望みます。

保護司は、様々な仕事を持ちながら更生保護のボランティア活動をしています。今後も健康第一でご活躍されることを願っております。





# 「更生保護女性会」の活動報告

～東北管内の更生保護女性会の活動について紹介します～



## 「東北地方更生保護女性連盟」

1968年（昭和43年）、変動する社会にあって「青少年を守ろう」と熱い志を持った、東北地方の更生保護婦人会員130名が仙台市に相集い、「東北地方更生保護婦人協議会」を結成しました。その後、2003年（平成15年）に「東北地方更生保護女性連盟」と改称し、当連盟も今年で56年を迎えました。

会員減少が続くなか、東北として現在約12,000名の会員が、各県で地域のニーズに対応した子育て支援や地域との連携活動を活発に展開しております。

過日令和6年9月10日～11日、好天にも恵まれ山形



市に於いて「令和6年度会員研修会」を開催しました。研修員100名、日本更生保護女性連盟・大場玲子常務理事、東北地方更生保護委員会・



瀧澤千都子委員長、東北地方保護司連盟・天内修会長、東北地方BBS連盟・今関達也会長、加えて開催県である山形県のご来賓の方々にご臨席を賜り、成功裡に終えることができました。何よりも陰で研修会を支えてくださった山形保護観察所、山形県更女の皆様には心より感謝申し上げます。

この度の研修会では、一人ひとりが更女活動への自信と確信を深め、次の活動へ踏み出す一歩となり、実り多い研修会となりました。

今後も研修会を軸に東北更女のネットワークをより一層強くし、関係機関団体と情報を共有しながら“更生保護”の精神に沿った活動を継続していく所存です。

### 令和6年度東北地方更生保護女性会員研修会 主な日程

#### 【1日目】9月10日（火）

- \* 開会
- \* 挨拶
- \* 祝辞
- \* 講話「待てない時代にこそ  
～伝えたい思いが伝わるために～  
一般社団法人日本更生保護女性連盟常務理事  
大場玲子氏
- \* 「地域との連携・協働活動推進地区」活動状況報告  
山形・尾花沢市更生保護女性会
- \* 「子育て支援地域活動モデル地区」活動状況報告  
青森・中泊地区更生保護女性会  
岩手・山形地区更生保護女性会  
福島・福島地区更生保護女性会

#### 【2日目】9月11日（水）

- \* 4分科会・研修討議  
テーマ「誰一人取り残さない地域社会をつくる  
更生保護女性会活動を求めて」
- \* 全体協議
- \* 講評
- \* 次回開催県挨拶（秋田県）
- \* 閉会

## 対面開催に思う

東北地方更生保護女性連盟会長 川野 秀子

コロナ禍後、対面開催は石巻、福島に続いて3年目、今年の担当県は山形。山形県連では観察所に集まり、打合せを重ね、地区会では山形ならではの土産をと楽しんで作る。地元でそのいそいそとした準備ぶりを目の当たりにしてきた。

そして、当日の2日間となる。参加する側も迎える側もイキイキとしている、場が華やいている。ご来賓から励ましの言葉をいただき、大場常務理事の講演を注視して聞く。4地区会の活動事例報告と意見交換は自信に満ちていた。2日目は4分科会とも、司会者を中心にした運営委員の導きで全員発言、テーマに迫った意見交換ができた、記録は休む間がなかったであろう。

今回から6県連会長は皆一役を担って運営したことは画期的なことである。東北の会員が集い、夕食会までくじ引きで席を決め、情報交換する。なんと充実感を満喫した2日間だったことか。こんなに意義の大きい研修会も経費削減を考えて一考を要するようになった。次回担当は秋田県連、経費削減をいかにするか。

～各県更生保護女性連盟から活動紹介～

青森県更生保護女性連盟 会長 塩原 誓子

当連盟は昭和37年に東北で最初に設立され、今年で62周年になります。以来「母の愛」をスローガンに地域に根ざした様々な活動を継続して参りました。刑務所等への慰問、更生保護施設あすなろ開設までの長きにわたる支援活動、開設後から現在に至るまで物心両面でのお手伝いをさせて頂いているところ



中でも手作り給食提供は「家庭の母の味」と喜んで頂き、大変嬉しく思っております。また、連盟の主体的活動として、昭和43年から各地区会が持ち回りで開催している「秋の集い」は今年で56回を迎えました。毎年、会員が一堂に会し、再会を喜び、長年の活動に対する仲間の顕彰を祝い、かけがえのない交流の機会となっています。半世紀余りにわたり途切れることなく続いてきたのは言うまでもなく会員皆様の「熱意と慈愛の行動」が育んだ賜物であり、深い感慨を覚えます。ご協力下さった皆様に最大の感謝を捧げるとともに、これからも会員一同連携し、明るく、楽しく活動して参りたいと思っています。「ほっとけない、母のこころ」で・・・

宮城県更生保護女性連盟 会長 浅野 よし江

本連盟は、28地区更女会で構成され、1,820人の会員で活動しています。昨今、安全安心な地域社会を作るためには地域活動の重要性と関係機関・団体との連携協働活動の推進が提唱されています。私たちは地区更女会活動の一層の充実を目指すため、矯正施設の年間行事に全地区当番で支援協力を拡大。更に更生保護施設への食事作りも広く呼びかけ、地元特産品や郷土食料理で支援、感謝の言葉が更女会活動の大きな励みになっています。新会員研修も仙台保護観察所主催で本年も9月に開催され「更生保護制度のしくみや大切さを良く理解できた」との声に大きな期待を馳せる等活動への意志結集を図った上で、更生保護全体の拠点とされるサポートセンターの利活用やネットワークを形成し、安全安心な地域社会づくりに貢献出来るよう



取り組んでいます。地域の多くの皆さんにご理解を頂きながら更女会の存在を対外的にも大いにアピールしていきたいと考えております。

山形県更生保護女性連盟 会長 奥山 歌代子

山形県更生保護女性連盟は結成55年を迎え、県内21地区より構成されています。会員は最大地区176名から最小地区17名と差異はありますが、地域の中で築き上げてきた歴史ある活動と、時代に求められる諸活動を創意工夫しております。交流研鑽の場の山形保護観察所と共催の新会員研修会は、平成18年に始まり、保護観察所長講話、連盟会長のお話、地区会活動の事例発表、グループ討議を行います。山形県更生保護女性会員研修大会と県内4方面別に分けたブロック研修会は交互に隔年開催です。園児等が対象のホゴちゃんサラちゃんぬりえコンテストは4年になり、応募作品展を21地区で開催して、更生保護の心と更女会活動を伝えて会員増強に繋げています。今春誕生の県連盟キャッチフレーズ「思い合い 支え合い 共に歩む」に山形更女1,597名の心意気を織り込んで、9月山形会場の東北地方更生保護女性会員研修会盛況に繋げて、活動の翼はさらに広がります。



岩手県更生保護女性連盟 会長 大槻 静子

今年5月、盛岡少年院の運動会が開催され、4年ぶりに、岩手県内24地区から、会員約100名が駆け付けました。手を叩き過ぎて翌日湿布を貼った人や声がかすれて出なくなった人など、本当に素晴らしい更女応援団でした。

岩手県連盟では、3年前から県内24地区を6つに分け、地区ごとにブロック研修を行っています。各ブロックが知恵を出し合い、工夫を凝らし、講演や活動発表等で交流を図っています。

また、県連盟の研修旅行も続けられ、今年も、東京高等裁判所公開裁判傍聴と都立人権プラザでの研修を行います。宿泊は鬼怒川温泉という楽しみもあります。

今年度、岩手県更女連盟は、1,835名でスタートしました。昨年度より約100名の減少でした。一人の力は小さくても、集まれば大きな力になることを胸に、共に前を向いて、楽しく活動したいと思っています。



秋田県更生保護女性連盟 会長 齊藤 正子

昨年の地更女研修で、千葉理事長の「祭りの音も華やかに、心の痛みを秘めて」と題した講話がありました。お祭りには個性があります。たとえ心の内に憂いる事や悩みがあっても人は祭りのために汗をかき、盛り上げてくれます。我が秋田の「竿灯祭り」もそうです。指し手と観客が、空気感や想いを一つにする心ふれあう素晴らしい祭りとして自負しています。長い歴史と伝統、技が受け継がれ、地域との繋がり、親子の繋がりが生まれ、人間関係の大切さを学ぶ良い機会にもなるでしょう。特に技の継承では何度も何度もやり直し、挑戦をし続け本番を迎えます。罪を犯した人達も更生し続け、社会復帰を果たします。何時か必ず祭りのように皆さんに喜んでもらえる人生を送るようお願いを込めて、更生保護団体は竿灯祭りにも大きな協力をしております。秋田県更生保護女性連盟も常に「母の愛」をもって更生のための支えとなり、見守り続けます。



福島県更生保護女性連盟 会長 羽田 トモ子

令和6年度の会員数は2,100名を割りましたが、活動は活発に継続され、地区活動報告には、標語を子ども達から募集、カレンダーにして家庭に配り、日常の啓蒙をしたり、BBSと協働してかるたの作成をした地区もあります。

県内18地区は当番で、福島刑務所の「旅立ちの会」に参列し、出所者の前途を励ましたり、自立更生促進センターでお茶会を開き、おばさん達との世間話を、持参した家庭の味とともに楽しんでもらったり、また衣類などの支援品を毎月届けています。

コロナ禍で中断していた昼食会も再開の方向で活動が始まりました。至道会では入所者と更女会員で食事、ゲームをして涙ぐむほど喜ばれました。

自己研鑽のため、裁判所見学や、保護司会と研究集会を開き、地区の状況を学んだり、社明運動の一環として挨拶運動や薬物乱用防止のPR活動、大型店頭で万引き防止呼びかけ運動なども多くの地区が取り入れ活動しています。ご一緒に活動してみませんか！





# 「BBS会」の活動報告



～東北管内のBBS活動についてご紹介します～

## 令和6年度 第66回東北地方 BBS 大会及び東北管内研修会開催

福島県BBS連盟会長 小松 陽介

福島県 BBS 連盟が当番県となり、9月7日（土）～8日（日）の2日間にかけて、第66回東北地方 BBS 大会及び東北管内地方別 BBS 会員研修会を開催いたしました。大玉村のふくしま県民の森フォレストパークあだたらを会場に、東北各県から70名の会員が集まり、大会と研修会を実施することができました。

大会においては、長年にわたり活動に尽力してきた浦山明浩会員が日本 BBS 連盟会長表彰を、高校生のときから須賀川地区の活動を牽引してきた清水洋助会員が東北地方更生保護委員会委員長感謝状を受表彰。また、コロナ禍にも関わらず会を結成して活動を開始した福島大学 BBS 会が東北地方 BBS 連盟会長特別賞を受表彰、立ち上げから活動の中心となって活躍してきた小泉佳弘会員の他、須賀川地区の会員3名が福島保護観察所長感謝状を受表彰しました。受表彰者を代表して浦山会員が謝辞を述べ、今後の活動へさらに邁進する決意を新たにしました。これまで熱心に活動を続けてこられた会員や、大学への BBS 会立ち上げにあたりご指導くださった高橋有紀准教授、学生の皆さんには敬意を表します。



研修会では、2つのテーマについてグループ協議を行いました。1つは、異なる考えを持った他者の意見を尊重しながらも、自分の意見を主張し、できるだけ多くの人々が納得できる客観的な結論を導くことをロールプレイングを演じながら学ぶというものです。当事者と、それを責める役、それを擁護する役、3人を調整するリーダー役に分かれて役を演じてもらい、それぞれの立場や性格になりきって議論しました。非常に活発に意見が交わされ、各グループの結果発表には、話し合いの経緯や役を演じた人の考えなどが反映され、非常に面白い妙案がいくつも挙げられました。今後も多様化、国際化が進む社会で円滑な人間関係を築くために必要なスキルを身につけることができました。

もう1つの研修は、昨年度の「BBS 運動基本原則」改訂について日本 BBS 連盟会長の今福章二様から解説をいただき、これからの BBS 活動の魅力を探るこ

とをテーマにグループ協議を行いました。今回の基本原則の改定の主旨は、情報通信技術の飛躍的な発展に伴い、若者たちの生活環境は大きく変わり、孤立や孤独、生きづらさというようなキーワードに象徴される人間関係や社会構造に対応するべく、BBS 活動の目的・定義を再構築し BBS 活動の対象が広範囲に及ぶことを明確化することにあります。そのため、グループ協議のなかでは、非行少年に限らず、貧困による格差やヤングケアラーなどの問題に言及したり、関係機関に留まらず、地域や学校との連携など様々な分野へ協議は及び、非常に有意義な議論を行うことができました。

研修後の記念講演では、詩人の和合亮一氏を講師としてお招きし、「言葉で橋を架けるために～福島から発信できること～」の演題でお話いただきました。津波の被害に遭った人たちが綴った言葉の一つ一つが13年経った今も胸に突き刺さるようでしたが、そこから立ち直ろうとする人々のエピソードに、私たち BBS 会員も生きづらさを感じる人に向き合ったときに、どのように気持ちに寄り添えばよいのかを考えさせられる講演でした。

この東北大会は、コロナ禍で2年間中止、その後オンラインや縮小した形で開催されてはきましたが、2日間にわたりコロナ禍前の形で開催したのは実に5年ぶりでした。これを福島県主催で盛大に開催できましたことを大変うれしく思います。何より、東北各県の会員が一堂に会し、交流が再開する第一歩となったことで、これからの活動の弾みになってくれることを願います。東北地方更生保護委員会や福島保護観察所をはじめ、お世話になった関係機関の皆様、お集まりいただいた各県の会員の皆様、準備、運営に一丸となって取り組んでくれた会員のみなさんに、心から感謝を申し上げます。

BBS 会は青年ボランティアです。やる気がある人なら誰でも参加できます。もしご興味を持たれた方がいらっ



しゃれば気軽にお問合せください。

## 更生保護支援ボランティアふれあいサークル(秋田県) 安全安心なまちづくり関係功労者表彰受賞!!

令和6年10月16日、首相官邸において、「更生保護支援ボランティアふれあいサークル」(秋田県)の千葉恵美代表に対し、内閣総理大臣から表彰状等が授与されました。本表彰は、犯罪に強い社会の実現のため、安全安心なまちづくりの推進に関し、顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、もって安全安心なまちづくりに関する優れた取組を広く普及することを目的として表彰が行われているものであり、東北地方の更生保護関係団体としては初めての受賞となる快挙です。同サークルでは身寄りがない高齢者や障害者の刑務所出所者等の居住先を訪問し、日常の困りごとや健康状態等の「話し相手」となる活動を実施するなど、犯罪をした者等が孤立することなく地域社会の一員として立ち戻っていくことができるよう尽力する活動を行っており、それらの活動が評価されての受賞となりました。



# 12月17日<sup>㊦</sup> 令和6年度 東北ブロック 再犯防止シンポジウム 開催!!

今年度は東北地方更生保護委員会が中心となり開催いたします！  
詳細は、法務省ホームページ内のチラシをご覧ください！

事前申込制となっておりますので、お手数ですがチラシの2次元コードを読み込みいただき、メールにてお申し込みください。

法務省HP



なお、会場での参加を希望される場合は、会場に人数制限がございますので、お申込みを制限させていただく場合がありますことを予めご了承ください。もし満員となった場合は東北地方更生保護委員会ホームページ上でお知らせいたします。

東北委員会HP



皆様のご参加お待ちしております！